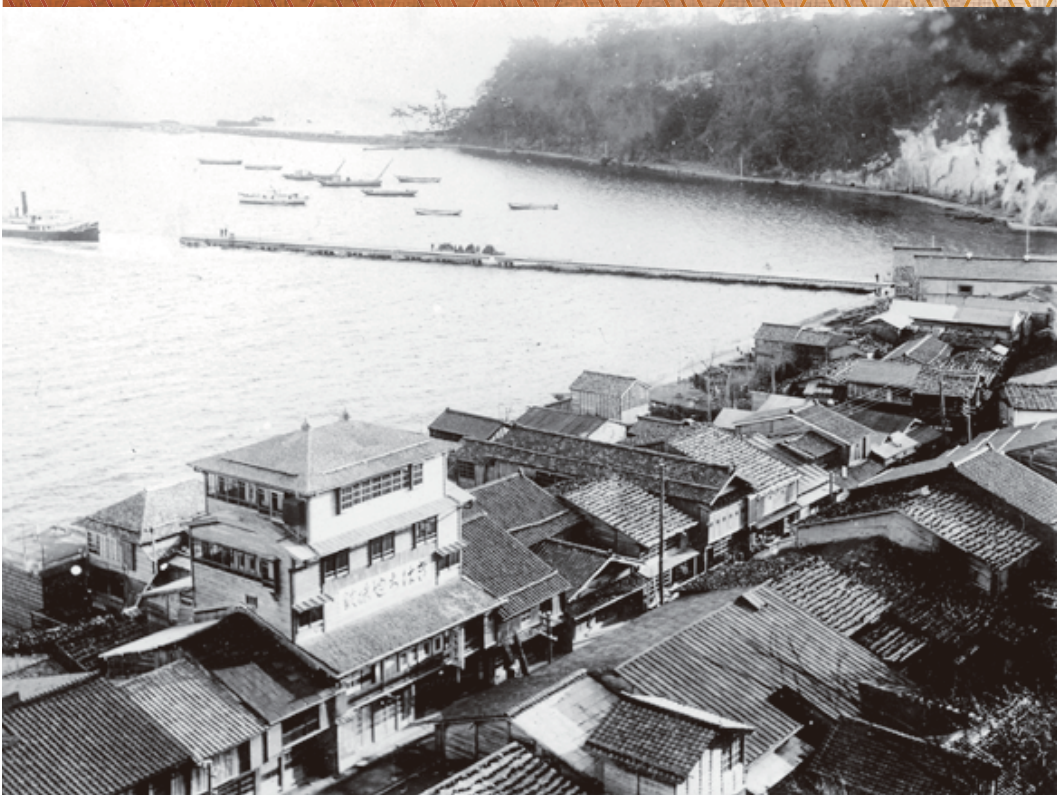


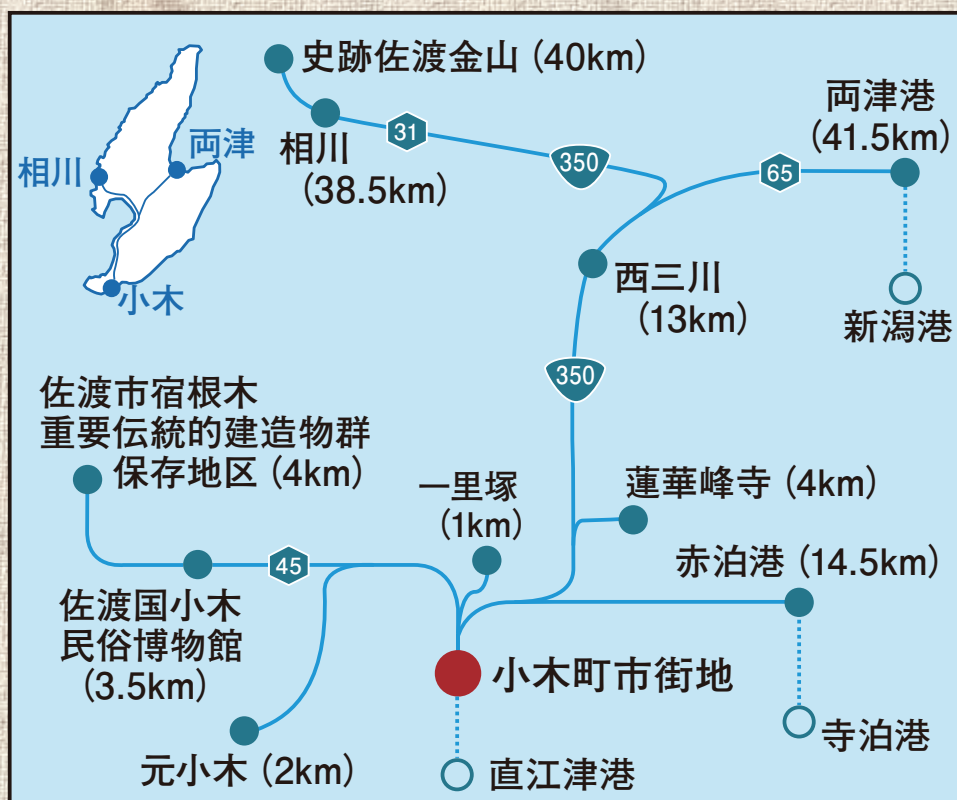
町人文化の残る港町

佐渡市小木町 まちなみ探索地図



往時（昭和8年以降）の小木町の町並み（提供：桃井 幸定氏）

佐渡市小木町は佐渡の金銀の積出港、北前船や西廻り航路の寄港地として栄えた港町です。商業を中心に賑わい、佐渡では珍しい歌舞伎も行われていました。現在はたらい舟や竹細工、鼓童が有名となっていますが、当時の町人文化を偲ばせる町屋など、多くの歴史的な建物が残っています。近世に新たにつくられた港町で、歴史的な町並みが今も残っている町として、全国的にも貴重と言えます。



■ 各種団体の連絡先

- 町人文化の街おぎ振興組合…………… ☎0259-86-2216 (小木町商工会)
- 小木ふれあいガイドの会…………… ☎0259-86-3200 (南佐渡観光案内所)
- 佐渡国小木民俗博物館…………… ☎0259-86-2604
- 佐渡市教育委員会
南教育事務所小木出張所…………… ☎0259-86-3191

小木町まちなみ探索地図は、小木町の歴史的建物を中心とする町並みの魅力を多くの人に伝えたいと思い、制作しました。小木町の一般観光情報につきましては佐渡観光協会発行の「日本海交易の十字路まち歩きマップ 小木・宿根木編」をご参照ください。

マップに掲載している個人住宅は非公開です。まちあるきの際には、プライバシーに十分配慮して頂くようお願い申し上げます。

参考文献

- 1.『小木湊絵図』（増田貞治氏所有・1804～1818推定）
- 2.鈴木紘太『近世港町小木における歴史的建造物の残存状況及び外観特性』（新潟大学工学部建設学科建築学コース平成19年度卒業論文）

発行：町人文化の街おぎ振興組合
編集：新潟大学工学部 建設学科 都市計画研究室
協力：小木ふれあいガイドの会・佐渡国小木民俗博物館
デザイン・印刷：株第一印刷所
※このマップは『新潟県コミュニケーション行政推進事業』の助成を受けています。
2008.03発行

佐渡金銀山

文禄4（1595）年、相川で金銀山が発見され、小木町は佐渡から本州への金銀の出発点として重要視されました。そのため郊外の安隆寺に本陣が置かれ、大久保長安によって元小木から小木に港・商人が移され、役人の下使いをする問屋5人衆（後に20人に拡大）が港を管理しました。相川の金銀は小木街道を通り小木町まで運ばれるようになりました。金銀は木崎神社に一時保管され、その後、小木港から対岸の天領出雲崎、北国街道を通り江戸まで運ばれました。



末広町の町並み



本町の町並み

北前船

小木町は内の澗・外の澗という2つの港を擁し、金銀の積み出し港の他に、寛文12（1672）年から始まった西廻り航路や北前船の寄港地としても栄えました。18世紀中ごろには新潟へ向かう廻船が順番待ちで小木に滞在し、船員が町へ繰出すことで町には様々な職業が発生し、繁栄しました。小木町は、日本各地と佐渡・新潟を結ぶ海上の道、陸上の道の中継地点として宿場町の要素も持っていたと言えます。



復元された北前船・白山丸（佐渡国小木民俗博物館所蔵）

町屋

小木町に残る歴史的建造物のほとんどは町屋と呼ばれる建物です。町屋とは町場にある商職人の住居の総称で、主に江戸時代から昭和の初めにかけてつくられました。町屋の特徴としては、以下の4点が挙げられます。

- ①敷地が奥に細長いことが多い
- ②隣家と接して建物が建てられている
- ③前面道路に接して建物が建てられている
- ④各部屋が通り土間と呼ばれる廊下でつながる

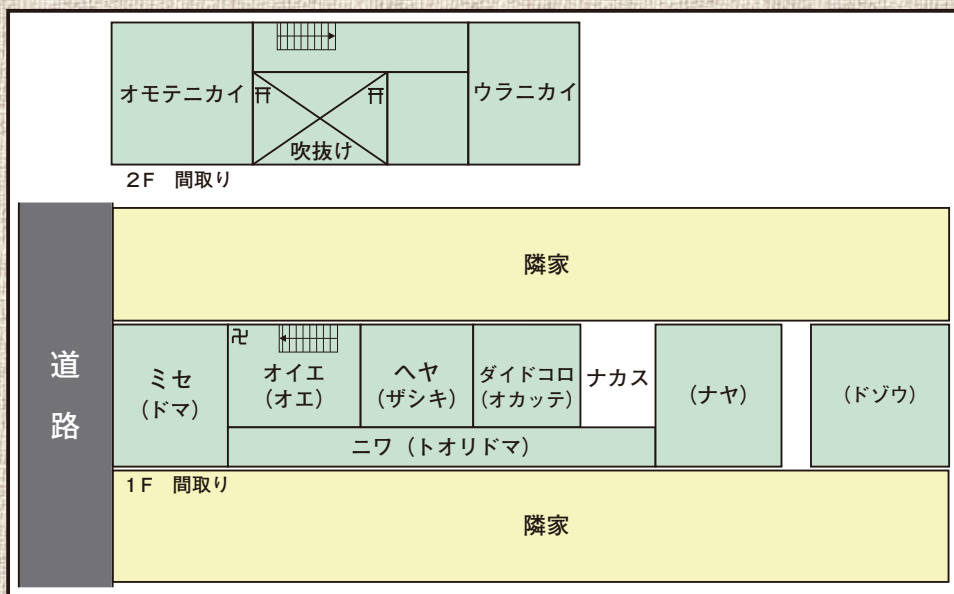


図3：小木町の町屋の間取り（例）（参考文献：2）

間取りと内部意匠

小木の町屋は通りから順にミセ（ドマ）、居間の役割を持つオイエ（オエ）、ヘヤ（ザシキ）、ダイロコ（オカッテ）と並び、ナカスと呼ばれる坪庭を挟んでナヤがある場合が多く見られます。通りから見て右側には、ミセからナヤまで続くニワ（トオリドマ）があり、さらにその奥に土蔵がある場合もあります。

内部の特徴としては大材を用いた差鴨居があり、内部が豪勢な造りとなっていることがうかがえます。また、神棚が2つある町屋が存在するのも特徴で、山側には恵比寿大黒様が、海側には木崎神社の氏神様である木花咲夜姫（このはなさくやひめ）が祭られています。



町屋の内部写真



図1：小木の町並みと三味線堀（参考文献：1）

町割

小木町は中立町付近（図2①）から発展した後、城山側へと拡大、中心も栄町方面に移ります（図2②）。さらに文政7（1824）年大火の被災者により三味線堀周辺（図1）の泉町周辺（図2③）も市街化し、明治以降には旭町方面へ広がります（図2④）。このように小木町は近世・近代にかけ、短冊状の敷地を持つ町屋が計画的に配置されました。

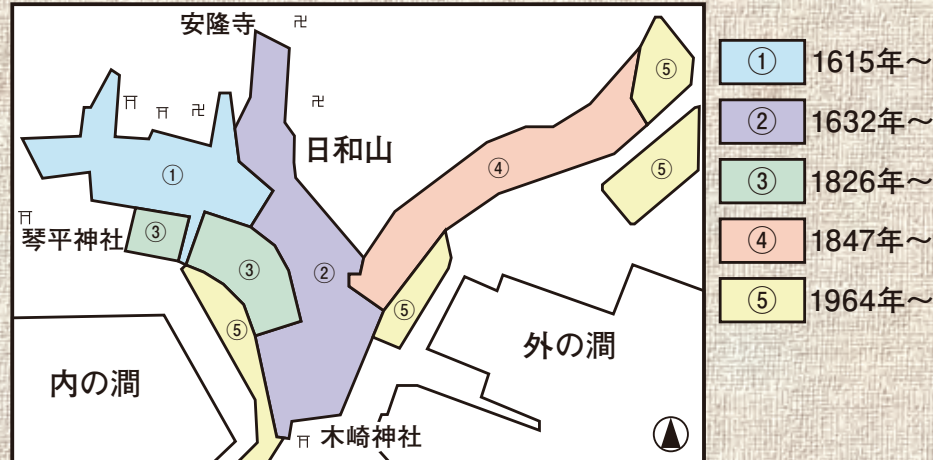


図2：小木の町の成立順序（参考文献：2）

宿根木との関係

小木町に寄った北前船は宿根木で修理されていたと言われています。小木町は計画的な敷地割の近世の港町で、船員に対し商売をする店や廻船問屋が建ち並び、商業の町でした。一方で宿根木は自然発生的で不整形な町割の、中世からの港町です。廻船問屋や船主のほかに船大工もあり、工業も生業のひとつでした。このように異質の港町が共に発展し、現在も歴史的な町並みが残っていることは注目に値します。

出鼻造り

裏面「14,19,21,23」

2階部分が1階部分より張り出している「出鼻造り」が多くあり「跳ね出し造り」とも呼ばれています。以前は通り側だけでなく、海を眺めるために浜側にも多く見られたようです。



ガラス雨戸・戸袋

裏面「14,18」

北陸地方では雨戸に窓がついているものがよく見られますが、小木の町屋には木枠以外全てがガラスでできているものが見られます。また戸袋もガラス製のものもあり、小木独特なものです。



高欄

裏面「4,5,14,18」

ガラス雨戸のため、通りから2階前面の欄干が見えます。特に貸座敷であった建物の欄干は意匠が凝っています。小木ではこれらすべてが高欄と呼ばれています。

石見瓦・能登瓦

小木の町中では黒々と光沢のある能登瓦がよく見られます。その中で茶褐色の石見瓦も見ることができます。これは米を積んで大阪へ上った廻船が、帰りの下り荷として島根から積んで戻ったことによると言われています。



飾り窓

裏面「21,23」

町屋に飾り窓が付いているのは特徴的です。用途は現在のショーウィンドウと似ています。改築などで撤去されてあまり多く残っていませんが、今でも数件で見られます。





12 安隆寺

明暦2(1656)年に廻船問屋の風間長右衛門が土地を寄進し、元小木から移転したと伝えられる日蓮宗の寺院です。仁王門、鐘楼堂、三十番神石板などがあります。高台にあり、港や町を一望することができます。



11 七右衛門そば店

5代続く老舗そば屋で、明治38(1905)年頃に建てられました。大火時に持ち出されたとされる神棚やおかもちが、当時を偲ばせます。内部を見学でき、吹き抜けが特徴的です。



10 ござ屋

廻船問屋のひとつで真野新町、松ヶ崎方面などの定宿でした。妻入りの建物で、これは豎屋が多い柏崎からの移設だからと考えられます。



9 天南荘

画家・棟方志功、詩人・相馬御風などの文化人が宿泊した建物です。



8 泊屋

宝暦元(1751)年に問屋20人衆の一人となり、越後寺泊方面の船の定宿でした。雨戸越しに高欄がよく見えます。



7 琴平神社

金刀比羅神社を総本社とする神社です。香川の総本社と同様、かつて門前には回り舞台を有する芝居小屋の琴平座がありました。



6 旧小木小学校

明治10(1877)年に建設の木造瓦葺き、洋風2階建て(7間×14間)の建物です。ギヤマン彫りの彫りガラスが使われていました。体操場もあり県内随一の校舎と評されました。



5 常盤屋

小木町に36軒あったという貸座敷のひとつです。風待ちの船乗りたちで賑わいました。この地区に多い妻入りの町屋で、装飾性の高い高欄が特徴です。



4 かしや

数度あった小木町の大火を免れた建物といわれています。海岸の隆起により前面道路が高くなったため、入口に階段があります。



3 赤梨屋

能登黒島や越中の船員が宿泊しました。小木の歴史と共に歩んできた建物で、格子と高欄が特徴です。



2 久松屋酒店

前は四十物屋(あいのや)でした。文政9(1826)年に泉町ができた当時の建物だと考えられています。



内の瀬と外の瀬／汐通しの堀切跡

城山を挟み東西に2つの天然の良港をもつ小木港は寛文12(1672)年に西廻り航路の寄港地となりました。東風が強いときには内の瀬に、西風が強いときには外の瀬に停泊しました。暴風雨の時には両瀬をつないだ汐通しの堀を使って、安全な瀬へ船を避難させました。



13 旧小木郵便局

大正時代に小木郵便局舎として使われていました。洋風下見板や縦長窓、胴蛇腹などの特徴がある洋館です。軒下はアーチ状になっており、細かい意匠の工夫が見られます。



上・下の番所跡
(写真:上の番所跡)
揚げ荷の10分の1を税として徴収したため十分一口屋(じゅうぶいちくちや)と呼ばれました。船の大型化に伴い、外の瀬の使用が増加し、次第に下の番所が使われるようになりました。



14 吾妻屋

間口が広く立派な外観の建物です。出鼻造りで、ガラス雨戸越しに内部の高欄を見ることができます。



16 お宿宝家

元貸座敷で、旅館を営むようになってから、部屋からの眺望を考えて現在の3階建ての建物となりました。



17 金子屋

かつては百貨店と呼ばれ、呉服から書籍・雑貨まであらゆるものを売っていました。小木町で唯一の蔵造の民家です。向かって左側に住居部分があり、出桁造りで軒が高い点が特徴です。



18 藤井

問屋5人衆の家柄で、奉行役人のもとで港湾業務を受け持つ公的な役割と、町民を指導する役割を担っていました。七尾・能登からくる廻船の定宿でした。ガラス雨戸・戸袋があり、内部の欄干までよく見えます。



19 鍋屋

江戸時代に問屋20人衆の一人となり、越中船の定宿でした。明治期には最初の越佐定期船・占魁丸の就航に尽力しました。間口6間半、奥行き17間と小木の町中でもひときわ立派な建物です。家の奥には蔵もあります。



20 北村薬品

昭和初期に建てられた洋風外観の薬局。中は京都風のつくりです。



21 半内屋

明治の商家で、船乗りと折衝する役割でした。出桁造りと飾り窓が特徴です。



22 天久保

かつては金物屋を営んでいました。妻入りの町屋で、広い間口が特徴です。



23 弥平次

代々商家の家柄で、6代目の鳳台は医師として町人から信頼されました。飾り窓と出桁造りが見られます。



1 木崎神社

慶長14(1609)年、佐渡奉行・大久保石見守長安が佐渡金山の繁栄と、幕府上納の金輸送の安全を祈願して建立し、相川から運ばれた金の保管庫として使われました。現在の本殿は火災焼失後の元禄8(1695)年に再建されたもので、県指定の文化財です。



24 喜八屋旅館

明治37(1904)年8月に起きた小木大火後に建てられました。建設当初は木造2階建て、石置木羽葺き屋根の町屋でしたが、昭和3(1928)年頃に5階建てに増築し、日本海を一望できるようになりました。国の登録有形文化財です。

凡例

- 掲載した歴史的建造物
※建物名称は小木町で親しまれている屋号です。
- モデルコース
- ビューポイント

0m 50m 100m 150m

まちあるきモデルコース(1.7km / 1時間30分程度)

- マリンプラザ小木 ○○ **START GOAL**
▼(0.2km/10分弱)
- 1 木崎神社 ○○ **港町の鎮守です**
▼(0.3km/15分弱)
- 内の瀬・外の瀬 ○○○○ **北前船が行き交った町の繁栄の起点です**
- 三味線堀跡 ○○ **堀の跡は今、道になっています**
▼(0.3km/15分弱)
- 5 常盤屋 ○○○○ **元貸座敷だった建物で当時の風情を残しています**
▼(0.2km/10分弱)
- 12 安隆寺 ○○ **町をよく見渡せます**
▼(0.2km/10分弱)
- 19 鍋屋 ○○○○ **小木の町の中でも立派な元問屋の町屋です**
▼(0.3km/15分弱)
- 24 喜八屋旅館 ○○ **とても珍しい5階建ての町屋です**
▼(0.2km/10分弱)